

2016年3月期 第2四半期決算説明会

2015年11月10日

日本光電工業株式会社

証券コード : 6849

<http://www.nihonkohden.co.jp>

第2四半期決算の概要 (連結)





1) 当第2四半期の決算概要

(単位: 百万円、単位未満切捨て)

	前第2四半期 累計 (2014/9)	当第2四半期累計(2015/9)			
		期初予想	7月31日 修正予想	実績	対前年同期増減率 (%)
売上高	72,023	78,500	74,000	73,498	2.0
国内売上高	55,695	-	-	53,285	△ 4.3
海外売上高	16,327	-	-	20,213	23.8
営業利益	5,502	6,000	3,500	4,219	△ 23.3
経常利益	6,096	6,000	4,000	4,401	△ 27.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,123	4,100	2,600	2,516	△ 39.0
平均レート	(2014/9)	(2015/9)			
1ドル	102.6円	121.6円			
1ユーロ	138.9円	135.0円			

変成器事業譲渡の影響除く:
△3.8%

為替影響除く: +9%

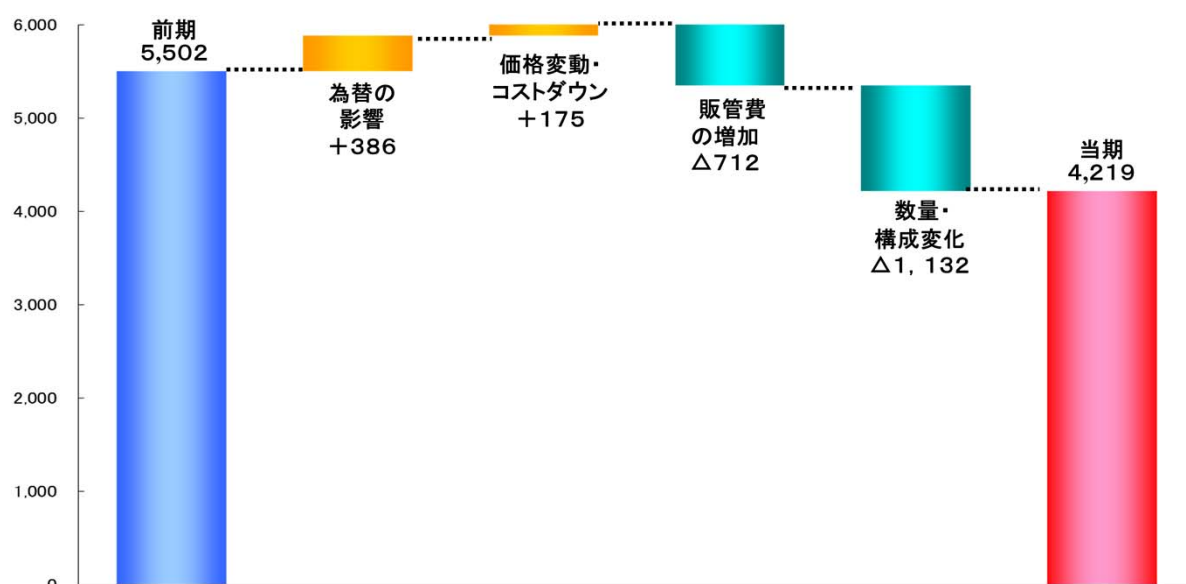
粗利率: 48.9% → 48.3%※
販管費率: 41.3% → 42.6%

※第2四半期会計では改善
粗利率: 47.6% → 48.8%

- 売上高は、2%増の734億円となりました。海外は好調だったものの、国内が減収となり、修正計画を5億円下回りました。
- 国内は、変成器事業の譲渡に加え、病院市場が低調に推移したことから、4.3%減の532億円となりました。
- 海外は、全ての地域、全ての商品群で二桁増となり、23.8%増の202億円となりました。現地通貨ベースでは、9%増加しました。
- 営業利益は、国内の減収に加え、販管費が増加したことから、23.3%減の42億円となりました。
- 経常利益は27.8%減の44億円、純利益は39%減の25億円となりました。
- 粗利率につきましては、上期は0.6ポイント悪化の48.3%でしたが、当期から最重要課題として取り組む収益改善策の効果により、第2四半期の3ヵ月では1.2ポイント増加の48.8%となりました。

2) 営業利益増減の要因分析

(単位:百万円)

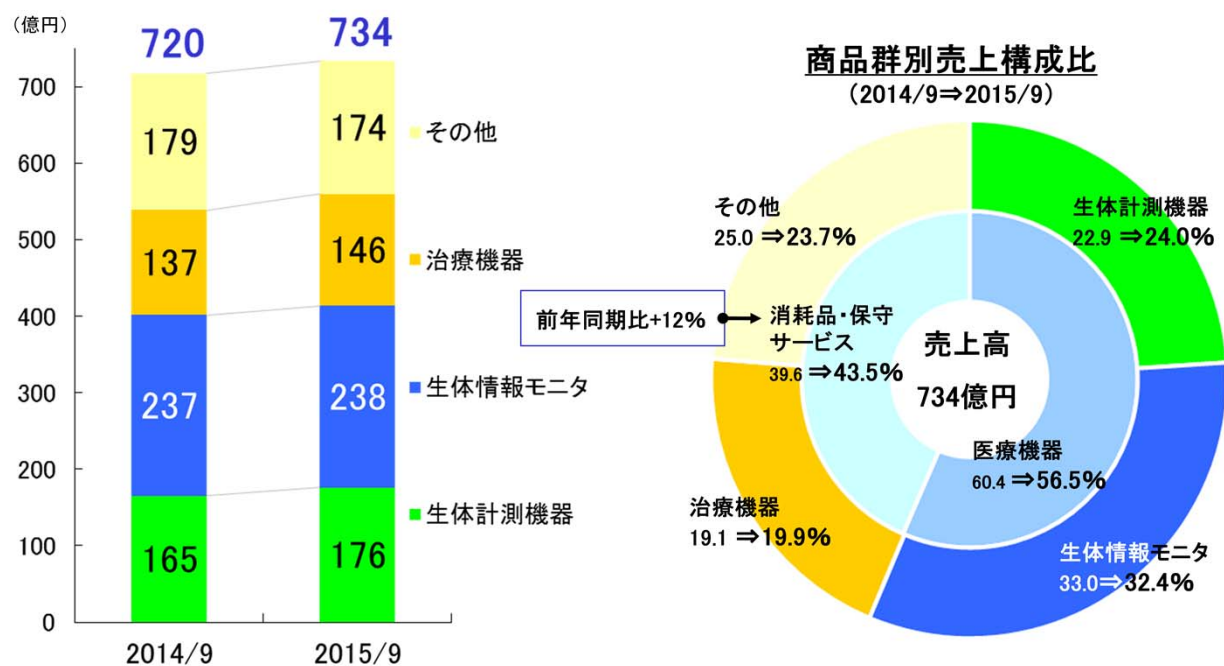


© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

3

- 営業利益が、前期の55億円に対し、42億円となった要因について、ご説明いたします。
- 為替の影響につきましては、当社は輸出入のバランスが取れているものの、ドルに対し円安が進んだことから、3億円のプラス要因となりました。
- 価格変動・コストダウンにつきましては、新工場への移転もありコストが増加したものの、国内で前期に行った大口商談での価格対応の影響がなくなり、1億円のプラス要因となりました。
- 販管費につきましては、経費の進捗管理を徹底し、計画は下回ったものの、海外の開発・販売・サービス体制強化に伴い、人件費、経費が増加し7億円のマイナス要因となりました。
- 数量・構成の変化につきましては、国内が生体情報モニタを中心に減収だったことから、11億円のマイナス要因となりました。

3) 商品群別売上高



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

4

- 商品群別では、その他商品群を除き、売上を伸ばすことが出来ました。
- 医療機器と消耗品・保守サービスで見ますと、海外での消耗品事業の強化を受け、消耗品・保守サービスの売上が12%増加し、安定収益につながっています。

3.1) 生体計測機器

(単位:百万円)

	前第2四半期 累計(2014/9)	当第2四半期 累計(2015/9)	増減率(%)	(参考) 比較可 能ベース
脳神経系群	4,480	3,812	△ 14.9	△ 0.3
心電計群	3,331	3,405	2.2	
心臓カテーテル検査装置群	4,501	5,313	18.0	
その他(診断情報システム等)	4,200	5,080	20.9	4.6
生体計測機器合計	16,514	17,611	6.6	
うち国内売上高	12,756	13,213	3.6	
うち海外売上高	3,757	4,397	17.0	

【国内】前年同期を下回る
【海外】区分変更の影響を除けば増収

【国内】前年同期を下回る
【海外】欧州、アジア州で好調

【国内】電極カテーテルの売上が伸長。
新商品も寄与

※その他には、診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。米国販売子会社ERP導入に伴い、2016/3期から、従来「脳神経系群」に区分していた現地インストール品(2014/9売上高約6億円)を「その他(診断情報システム等)」に区分しています。



脳波計 EEG-1250



心電計 ECG-2300



臨床用ホリグラフ RMC-5000

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

5

- 「生体計測機器」は、全体で6.6%増の176億円となりました。
- 国内では、脳神経系群、心電計群が前期を下回りましたが、心臓カテーテル検査装置群の電極カテーテルや新商品が好調に推移し、3.6%増の132億円となりました。
- 海外では、脳神経系群がアジア州で、心電計群が欧州、アジア州で好調に推移し、17%増の43億円となりました。
- 前期に脳神経系群に区分していた現地インストール品を、当期からその他の区分に変更しています。この影響を除く海外の脳神経系群は、増収となりました。

3.2) 生体情報モニタ

(単位: 百万円)

	前第2四半期 累計(2014/9)	当第2四半期 累計(2015/9)	増減率(%)
生体情報モニタ合計	23,797	23,804	0.0
うち国内売上高	16,446	14,669	△ 10.8
うち海外売上高	7,351	9,135	24.3

前年同期の私立病院市場における
需要の反動もあり、減収

・米州、欧州、アジア州の全ての
地域で好調
・新商品も寄与



ベッドサイドモニタ
CSM-1901



新興国向け
ベッドサイドモニタ
SVM-7500シリーズ



バイタルサインテレメータ
GZ-130P



消耗品関連

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

6

- 「生体情報モニタ」は、全体で前年同期並みの238億円となりました。
- 国内では、前年同期の私立病院市場における病床区分変更に伴う需要の反動に加え、大学、官公立病院市場における予算執行が抑制傾向にあることから、10.8%減の146億円となりました。
- 海外では、販売・サービス体制の強化が奏功し、米州、欧州、アジア州、全ての地域で二桁増と好調に推移しました。新興国向けのベッドサイドモニタなどの新商品も寄与し、24.3%増の91億円となりました。

3.3) 治療機器

(単位: 百万円)

	前第2四半期累計 (2014/9)	当第2四半期累計 (2015/9)	増減率(%)
医科向け除細動器	2,343	2,640	12.7
A E D	6,037	6,951	15.1
ペースメーカー・ICD	1,513	1,431	△ 5.4
人工呼吸器	679	644	△ 5.1
その他	3,166	2,977	△ 6.0
治療機器合計	13,739	14,645	6.6
うち国内売上高	10,496	10,348	△ 1.4
うち海外売上高	3,243	4,296	32.5
(参考)AED販売台数	39,300	42,900	9.2
うち国内販売台数	24,600	25,300	2.8

【海外】米州、欧州、アジア州の全ての地域で好調

【国内】増設・更新需要の取り込みにより販売台数増

【海外】全ての地域で好調
デフィブテック社製、日本光電製ともに好調

【国内】人工内耳の仕入先変更の影響もあり減収



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

7

- 「治療機器」は、全体で6.6%増の146億円となりました。
- 医科向け除細動器は、海外の全ての地域で好調に推移し、12.7%増の26億円となりました。
- AEDは、国内では増設や更新需要を取り込み、海外ではデフィブテック、日本光電ともに全ての地域で好調に推移し、販売台数は42,900台、売上は15.1%増の69億円となりました。
- 国内は、その他に含まれる人工内耳の仕入先変更に伴う減収もあり、1.4%減の103億円となりました。
- 海外は、32.5%増の42億円となりました。

3.4) その他

(単位:百万円)

	前第2四半期累計 (2014/9)	当第2四半期累計 (2015/9)	増減率 (%)
検体検査装置	4,203	5,073	20.7
画像診断装置、研究用機器他 ※	13,767	12,363	△ 10.2
その他合計	17,971	17,437	△ 3.0
うち国内売上高	15,996	15,053	△ 5.9
うち海外売上高	1,974	2,383	20.7

【国内】診療所市場で血球計数器、臨床化学分析装置が好調
 【海外】アジア州で血球計数器・試薬が増収。特にインド、中近東が好調

【国内】自社商品の販売強化策により、現地仕入品が減収

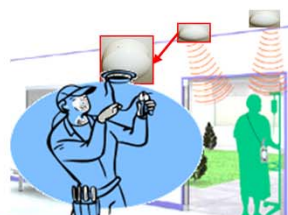
※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。2014年9月に変成器事業を譲渡いたしました。



全自動血球計数器
MEK-6500



臨床化学分析装置
CHM-4100



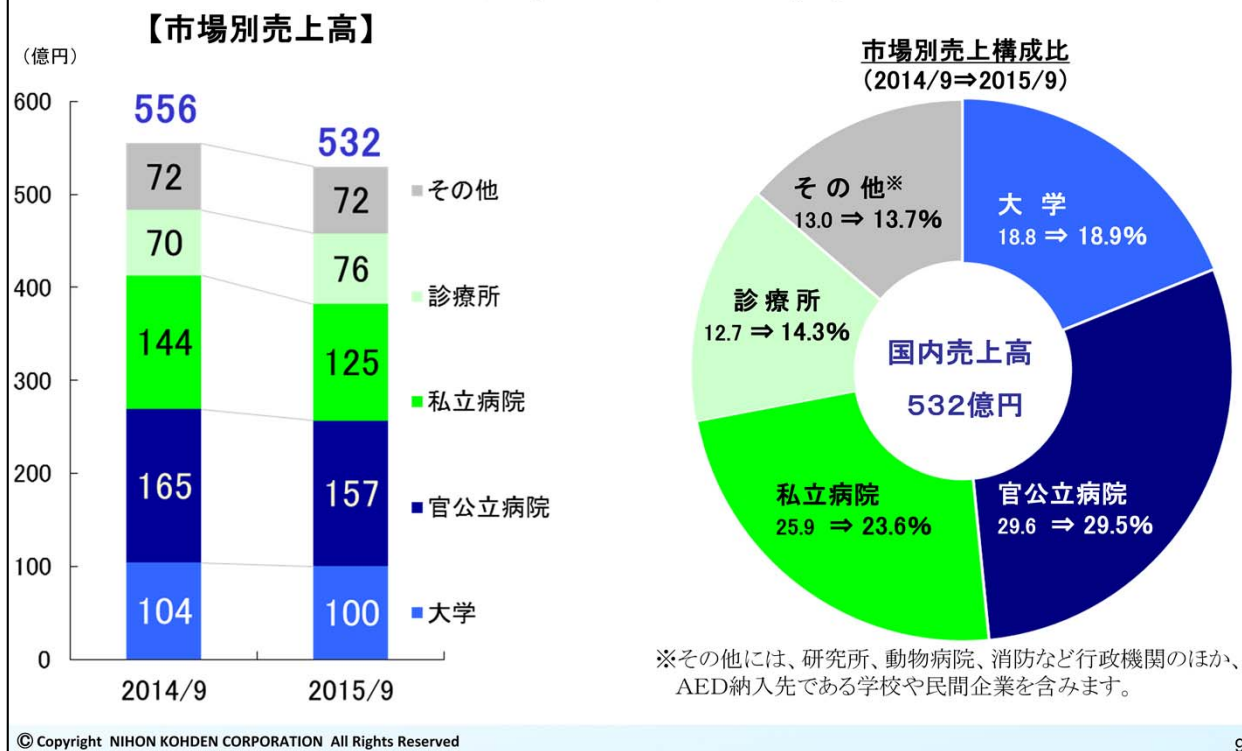
設置工事・保守サービス

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8

- 「その他」は、全体で3%減の174億円となりました。
- 国内は、診療所市場で、血球計数器、臨床化学分析装置が好調に推移しました。一方、自社品の販売強化策により現地仕入品が減収となり、変成器事業の譲渡も影響したため、5.9%減の150億円となりました。
- 海外は、アジア州で、血球計数器・試薬が増収となりました。特に、インド、中近東が好調に推移し、20.7%増の23億円となりました。

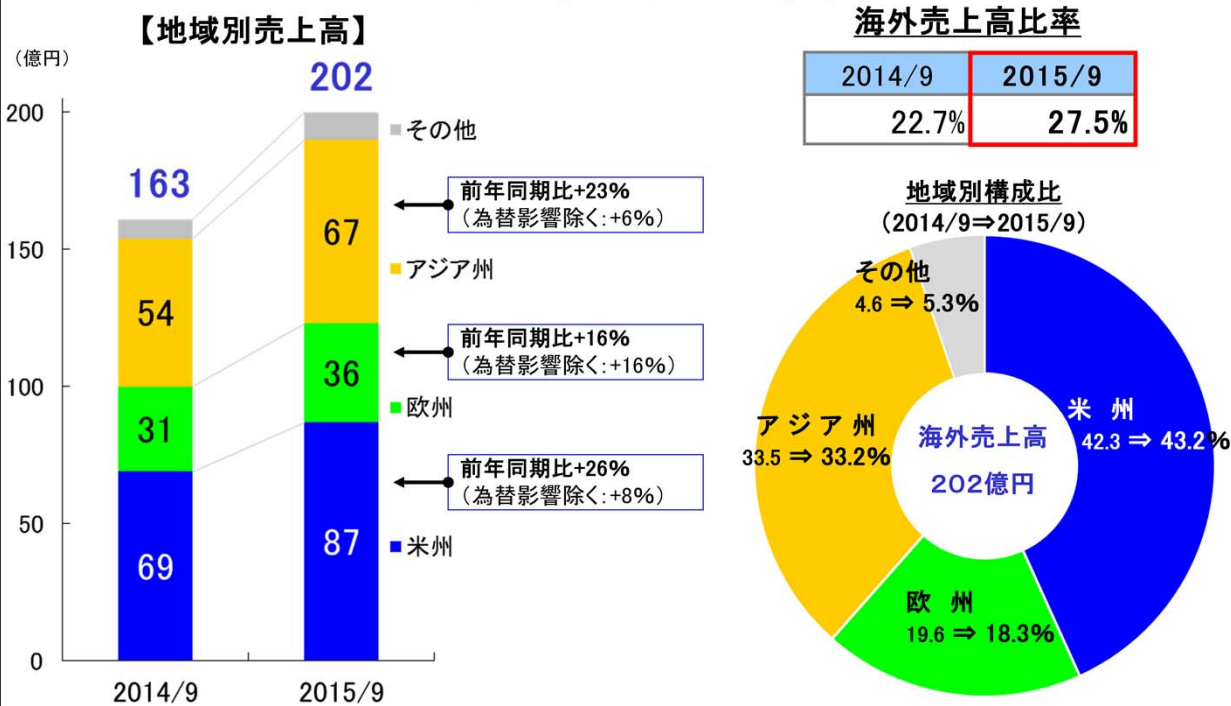
4) 国内売上高



9

- 国内売上高は24億円減の532億円となりました。
- 昨年4月の診療報酬改定、消費税引き上げの影響から、大学、官公立病院市場での予算執行が抑制傾向にあるほか、私立病院市場で、前年同期の需要増加の反動もあり、病院市場が低調に推移しました。
- 診療所市場では、診療所のニーズに対応した提案や新規開業支援が奏功し、増収となりました。
- 一般向けのAEDも好調に推移しました。

5) 海外売上高



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

10

- 海外売上高は39億円増の202億円、海外売上高比率は27.5%となりました。
- 現地販売・サービス体制の強化や、消耗品の拡販が奏功し、全ての地域、全ての商品群で二桁の増収となりました。
- 米州では、米国が大きく伸び、中南米も前期を上回りました。この結果、18億円増の87億円となりました。現地通貨ベースでは、8%増加しています。
- 欧州では、組織再編により販売・サービス体制の強化を進めるドイツを中心に大きく伸びました。この結果、5億円増の36億円となりました。現地通貨ベースでは、16%増加しています。
- アジア州では、インド、韓国、中近東が大きく伸び、中国も前年同期を上回りました。この結果、13億円増の67億円となりました。現地通貨ベースでは、6%増加しています。



6) 財政状態

(単位:百万円)

	前期末 (2015/3)	当第2四半期末 (2015/9)	増減額
流動資産	118,389	104,529	△ 13,859
固定資産	28,366	28,812	446
資産合計	146,755	133,342	△ 13,413
流動負債	45,654	32,570	△ 13,083
固定負債	1,797	1,505	△ 292
負債合計	47,451	34,076	△ 13,375
純資産	99,304	99,265	△ 38
負債・純資産合計	146,755	133,342	△ 13,413



7) 設備投資と研究開発費

(単位:百万円)

	前第2四半期 累計(2014/9)	当第2四半期 累計(2015/9)	2015/3 前期実績	2016/3予想	
				期初	11月4日修正
設備投資額	1,664	2,873	5,158	9,600	8,600
減価償却費	1,574	1,596	3,445	4,200	3,400
研究開発費	2,798	2,616	5,745	6,400	6,100

●設備投資の上期実績

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、所沢 総合技術開発センタの建設

●2016/3期計画における主な案件

新製品の「型」投資、工場生産設備、販促用製品、ERPシステム

所沢 総合技術開発センタの建設

着工:2015年4月
 完成・移転:2016年夏
 設備投資額:72億円 < 2016/3:35億円
 2017/3:37億円

朝霞 事業所の建設(免疫試薬部門の移転)

着工:2016年2月(予定)
 完成・移転:2016年冬
 設備投資額:約11億円 < 2016/3:1億円
 2017/3:10億円

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

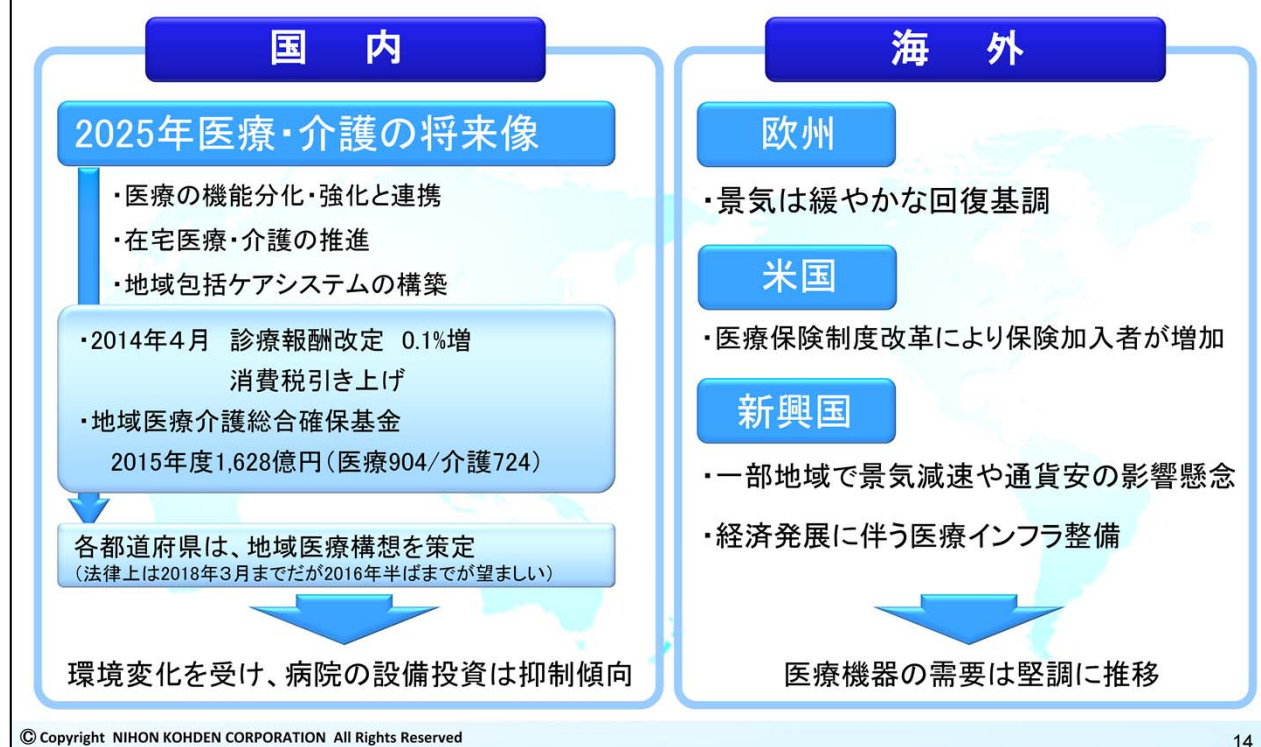
12

- 設備投資は、12億円増の28億円となりました。この中には、所沢に建設中の総合技術開発センタが含まれます。
- 減価償却費はほぼ横ばいの15億円、研究開発費は1億円減の26億円となりました。
- 通期につきましては、収益改善に向けて見直しを行い、設備投資は86億円、減価償却費は34億円、研究開発費は61億円を見込んでいます。



通期の業績見通し

1) 経営環境



14

- 国内では、2025年の医療と介護の将来像に向けて、医療制度改革が進められています。
- 昨年4月に診療報酬改定、消費税の引き上げがございましたが、今年度は、地域医療介護総合確保基金で医療分904億円が配分され、都道府県ごとに地域医療構想の策定が進められています。
- このような経営環境の変化を受け、病院では、設備投資に関する予算の見直しや延期の傾向が続く一方、診療所では良好な環境が続くと見られます。
- 海外では、一部地域で景気減速や通貨安の影響が懸念されるものの、欧米、新興国ともに、総じて医療機器の需要は堅調に推移すると見えています。



2) 下期の取り組み

国内事業の回復

- ・生体情報モニタ事業の強化
 - ・大学、官公立病院市場での大口商談獲得
 - ・競争力の高い商品の投入、機能追加による付加価値向上
- ・医療制度改革に対応した事業展開
 - ・地域医療連携→私立病院、診療所市場への注力
 - ・15/10医療事故調査制度開始→医療安全に寄与する商品・サービスの提供

引き続き収益改善に向けた取り組みを強化

- 消耗品・保守サービス売上の拡大
 - ・SpO₂、CO₂センサなど自社製消耗品の販売に注力
- 開発から生産に至るまでのコストダウン
 - ・主力機種・センサのコストダウン:工数・資材調達費の削減
 - ・開発効率の向上:共通技術開発の集約、設計文書の標準化
 - ・生産効率の向上:検査の自動化、1人→多人数分割セル生産への移行
- グループ全体で経費コントロールを強化
 - 海外の事業基盤強化など将来の成長に必要な投資を行いつつ、各社・各部門での経費進捗管理を徹底

- これらの環境を受け、下期はご覧の取り組みを推進します。まず、上期減収となった国内の回復に努めます。
- 当社の主力である生体情報モニタでは、大学、官公立病院市場における大口商談を確実に受注し、競争力の高い商品を投入することで、シェア拡大を目指してまいります。
- 地域医療連携に対応して、私立病院、診療所市場での取り組みを強化するとともに、医療事故調査制度の開始を受け、医療安全に寄与する商品・サービスを展開してまいります。
- 当期の最重要課題である収益改善に向けて、消耗品・保守サービスの売上拡大、開発から生産に至るまでのコストダウン、グループ全体での経費コントロールを強化してまいります。



3) 通期の業績見通し

(単位:百万円)

	2015/3 前期実績	2016/3予想 期初	11月4日修正	増減率 (%)
売上高	160,803	172,000	167,000	3.9
国内売上高	122,490	126,000	121,000	△ 1.2
海外売上高	38,313	46,000	46,000	20.1
営業利益	15,921	18,000	16,500	3.6
経常利益	17,234	18,000	16,800	△ 2.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,142	12,100	10,700	△ 4.0

海外売上高比率 23.8% 26.7% 27.5%

平均レート

1	ドル	109.6円	118円	121円
1	ユーロ	139.4円	125円	135円

【地域別海外売上高】

	2015/3 前期実績	2016/3予想 期初	11月4日修正	増減率 (%)
米州	16,423	20,000	20,300	23.6
欧州	7,495	7,700	8,300	10.7
アジア州	12,581	16,100	15,200	20.8
その他	1,813	2,200	2,200	21.3

(下期)

120円
135円

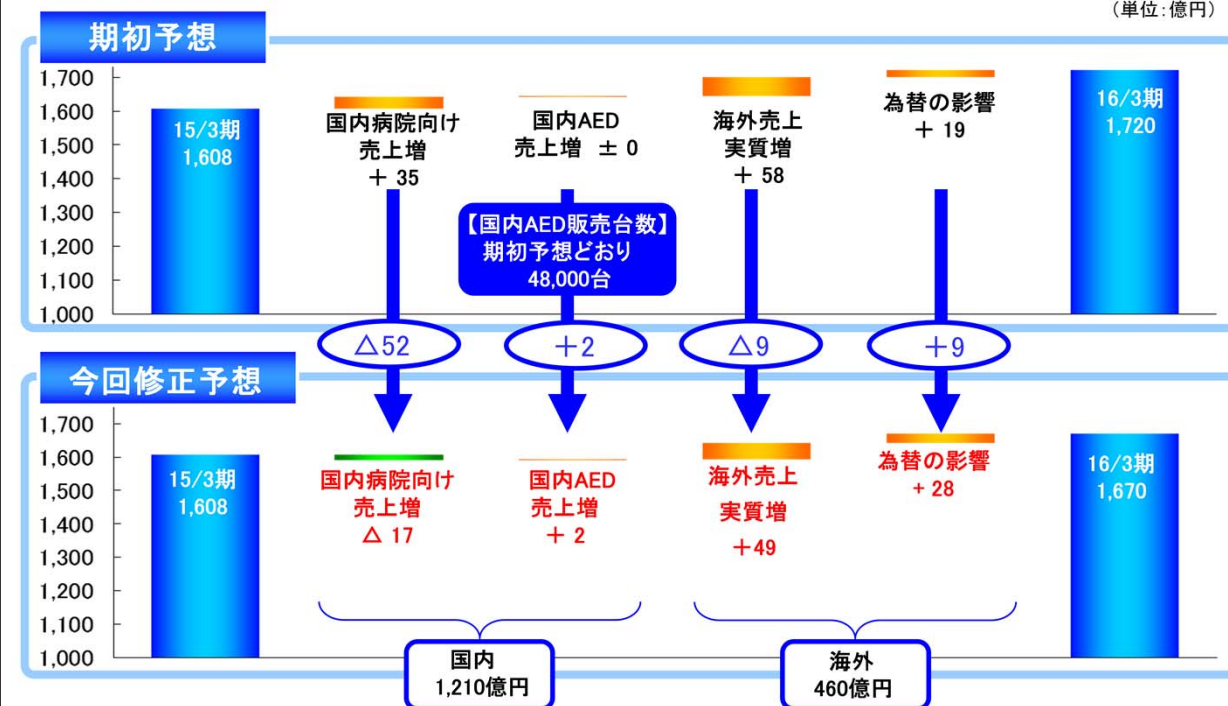
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

16

- 海外は好調に推移していますが、国内の市場環境が期初の想定よりも厳しい状況のため、売上・利益ともに下方修正いたしました。
- 売上高は3.9%増の1,670億円、国内売上高は1.2%減の1,210億円、海外売上高は20.1%増の460億円を見込んでいます。
- 国内は、下期は回復を見込むものの、上期の減収分を補うまでには至らない見通しです。
- 海外は、地域別の内訳は見直しましたが、概ね計画どおり推移すると見ています。
- 利益面では、販管費の伸びの抑制など、収益改善に努めるものの、売上が期初の予想を下回る見通しのため、営業利益は3.6%増の165億円、経常利益は2.5%減の168億円、純利益は4%減の107億円を見込んでいます。

4) 売上見通しの要因分析

(単位:億円)



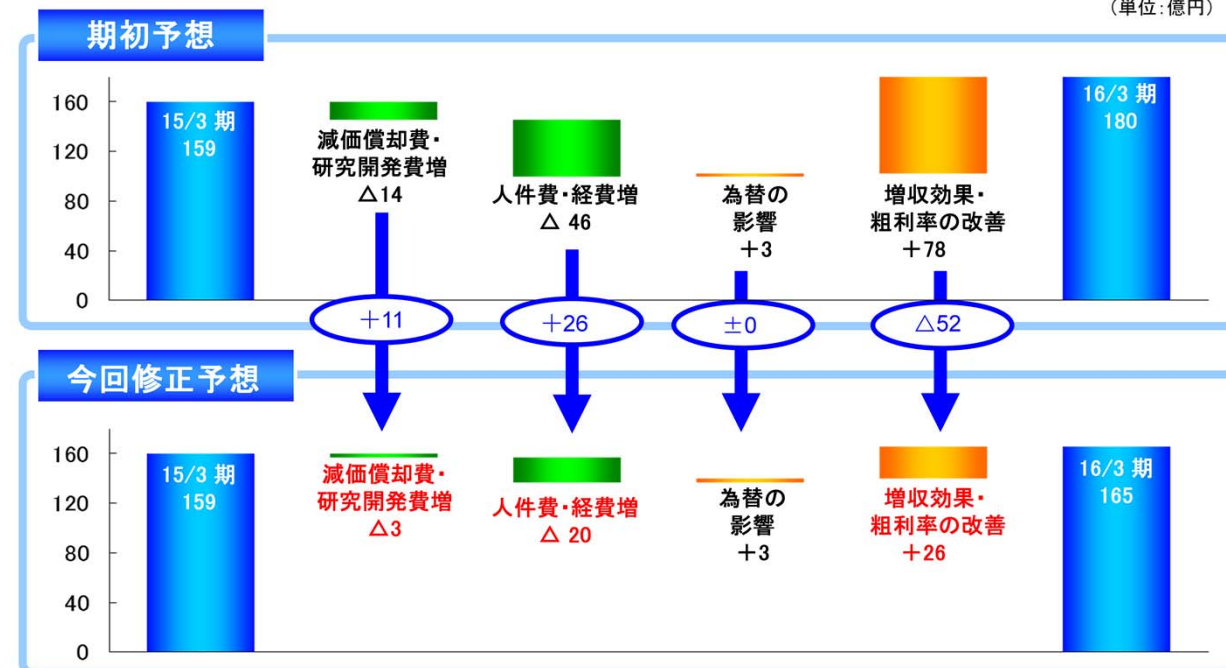
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

17

- 国内の病院向けは17億円の減収となる見通しです。
- AEDは2億円の増収、販売台数は期初予想どおり、48,000台を見込んでおります。
- 修正計画1,210億円の達成に向けて取り組んでまいります。
- 海外売上高は、中国が期初の想定を下回る見通しのため、49億円の実質増に見直しました。
- 為替につきましては、対ユーロのレートを見直し、28億円のプラス影響と見ています。

5) 営業利益見通しの要因分析

(単位:億円)



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

18

- 減価償却費・研究開発費、人件費・経費の増加につきましては、海外での体制強化を図る一方で、全社で費用の抑制に努め、合わせて23億円に圧縮いたします。
- 為替の影響につきましては、変更ございません。
- 増収効果とあら利率の改善による営業利益の増加は、売上が期初予想を下回ることから、26億円にとどまる見通しです。



[参考]商品群別売上高見通し

(単位:百万円)

	2015/3 前期実績	2016/3予想		増減率(%)
		期初	11月4日修正	
生 体 計 測 機 器	37,180	40,400	40,100	7.9
生 体 情 報 モ ニ タ	53,068	59,050	56,000	5.5
治 療 機 器	29,393	32,050	31,900	8.5
そ の 他	41,160	40,500	39,000	△ 5.2
売 上 高 合 計	160,803	172,000	167,000	3.9
(ご参考)				
消 耗 品 ・ 保 守 サ ー ビ ス	61,426	65,750	68,300	11.2

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

19

- 商品群別の売上高見通しについては、上期の業績をふまえ、修正いたしました。
- 粗利率の高い自社品の販売に注力するとともに、安定収益につながる消耗品・保守サービスの取り組みを、国内外で強化いたします。



当社の経営戦略

1) 長期ビジョンと中期経営計画

長期ビジョン (2010/4～2020/3)

The CHANGE 2020

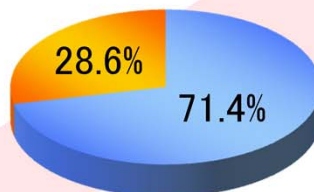
—The Global Leader of Medical Solutions—



第2ステージ

Strong Growth 2017

(2013/4～2017/3)



第1ステージ

SPEED UP III



2013年3月期

売上高 1,325億円
営業利益 134億円
営業利益率 10.2%



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

21

- 長期ビジョンと中期経営計画を着実に達成し、グローバル企業へのさらなる飛躍を推進するため、6月に鈴木を会長兼CEO、私を社長兼COOとする新たな経営体制に移行しました。
- 「病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより世界に貢献すると共に、社員の豊かな生活を創造する」という創業の理念を受け継ぎ、グローバルな競争環境の中で、常に新たなイノベーションを生み出し、日本光電の永続的発展を目指してまいります。
- 長期ビジョンでは、2020年3月期に、売上高2,000億円以上、営業利益250億円以上、海外売上高比率35%以上を目指しています。

2) 中期経営計画 数値目標

	2013/3 実績	2016/3 見通し	2017/3 中期経営目標	4年間の 平均成長率
売上高	1,325 億円	1,670 億円	1,820 億円	8.3%
国内売上高	1,102 億円	1,210 億円	1,300 億円	4.2%
海外売上高	223 億円	460 億円	520 億円	23.5%
営業利益	134 億円	165 億円	200 億円	10.4%
ROE	12.7%		13.5 %	
地域別海外売上高 為替の前提: 1ドル118円/1ユーロ125円				
米州	80 億円	203 億円	226 億円	29.3%
欧州	56 億円	83 億円	87 億円	11.6%
アジア州	75 億円	152 億円	182 億円	24.6%
その他	10 億円	22 億円	25 億円	24.0%

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

22

- 中期経営計画は、内容を一部見直し、推進しています。
- 売上高は1,820億円、国内売上高は1,300億円、海外売上高は520億円、営業利益は200億円、ROEは13.5%を目標としています。
- 海外の地域別につきましては、引き続き、米国と新興国に注力します。

3) 中期経営計画 重要課題

世界トップクオリティの追求

グループ全部門の
全ての活動で品質を確保

技術開発力の強化

地域別事業展開の強化

コア事業のさらなる成長

新規事業の創造

企業体質の強化

グローバル化・効率性/収益性・スピード
を追求した経営

- 中期経営計画で取り組んでいる6つの重要課題のうち、「地域別事業展開の強化」と「コア事業のさらなる成長」について、ご説明いたします。

4) 2016年3月期の取り組み

①コア事業のさらなる成長

2015/3期、2016/3期発売の主な商品



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

24

- 当社は、独自のセンサ技術を中心に、5つの事業領域で展開しています。
- 患者のバイタルサインを統合する生体情報モニタ、国産唯一のAEDや除細動器を有する治療機器、高い世界シェアを誇る脳神経検査機器、診断から治療までのケアサイクルを統合する循環器検査機器、そして、ポイント・オブ・ケアにフォーカスした検体検査機器です。
- シームレスなデータベースの構築などを展開しているITソリューションや、安定収益につながる消耗品・サービスは、コア事業の成長における重要な共通要素です。
- 当期は、ご覧の新商品を投入する予定です。

4) 2016年3月期の取り組み

①コア事業のさらなる成長

導出18誘導心電図

synECi18
Synthesized Electrocardiogram



標準12誘導心電図のデータをもとに
右側胸部と背部の6誘導を
演算により導出



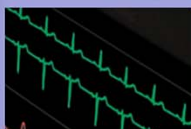
esCCO

心拍出量の非侵襲・連続モニタリング
心電図とSpO₂を使って推定

※ esCCO : estimated Continuous Cardiac Output

不整脈解析

ec1
Arrhythmia Analysis



不整脈検出率の向上、
誤アラームの低減を
実現

日本光電
独自の
センサ技術

早くてやさしい血圧測定

iNIBP



※ NIBP : 非観血血圧

SpO₂

NPi
Pulse Oximetry

SpO₂を測定するパルスオキシメータの
原理を世界に先駆けて開発



CO₂測定用
酸素マスク
2015年発売

cap-ONE
ORAL NASAL EXPIRATION

etCO₂



CO₂モニタ
2016年
発売予定

世界最小・最軽量クラス
メインストリーム方式
CO₂センサ



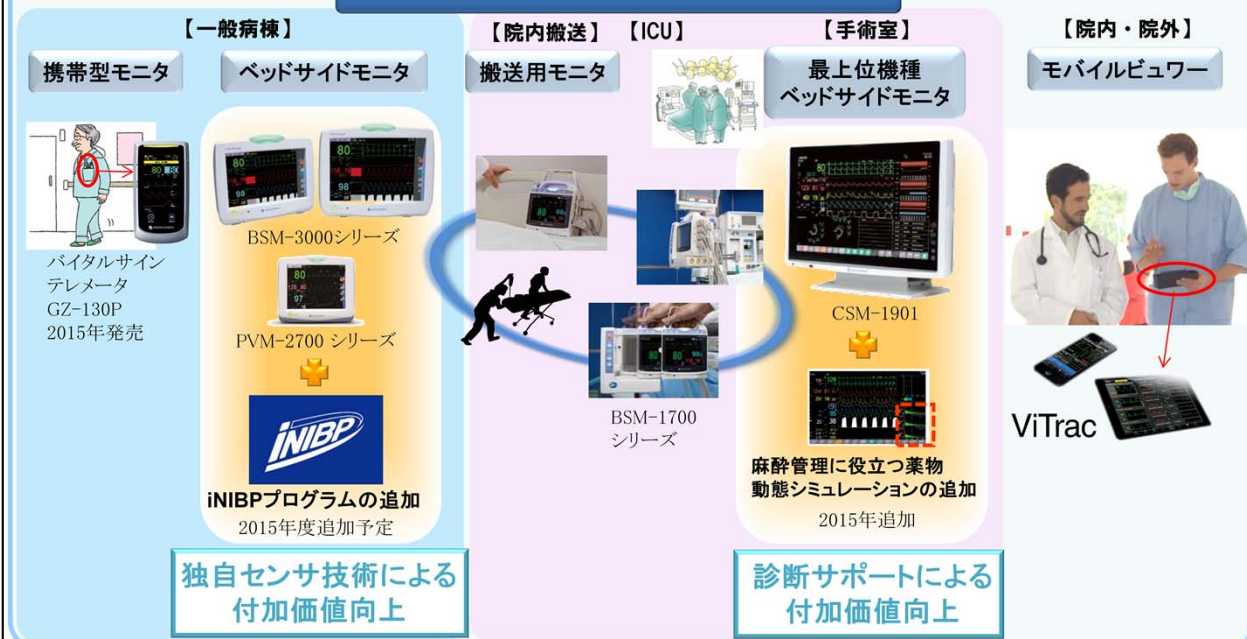
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

25

- 当社は創業当時から、人と機械の接点である「ヒューマン・マシン・インターフェース」に着目し、独自のセンサ技術を発展させてきました。センサ技術を活用し、革新的なパラメータを開発しています。
- 例えば、導出18誘導心電図synECi18、不整脈解析のアルゴリズムec1、パルスオキシメータ技術NPi、非侵襲で心拍出量を連続測定できるesCCO、新たな血圧測定方式iNIBP、そして、世界最小・最軽量のCO₂センサcapONEです。
- これらのセンサ・パラメータ技術を応用することで、当社は、他社にはない高い臨床的価値を提供しています。
- 当期は、CO₂測定用酸素マスクを発売し、CO₂測定用のモニタを予定しています。

生体情報モニタリング事業

シームレスな患者ケアを実現



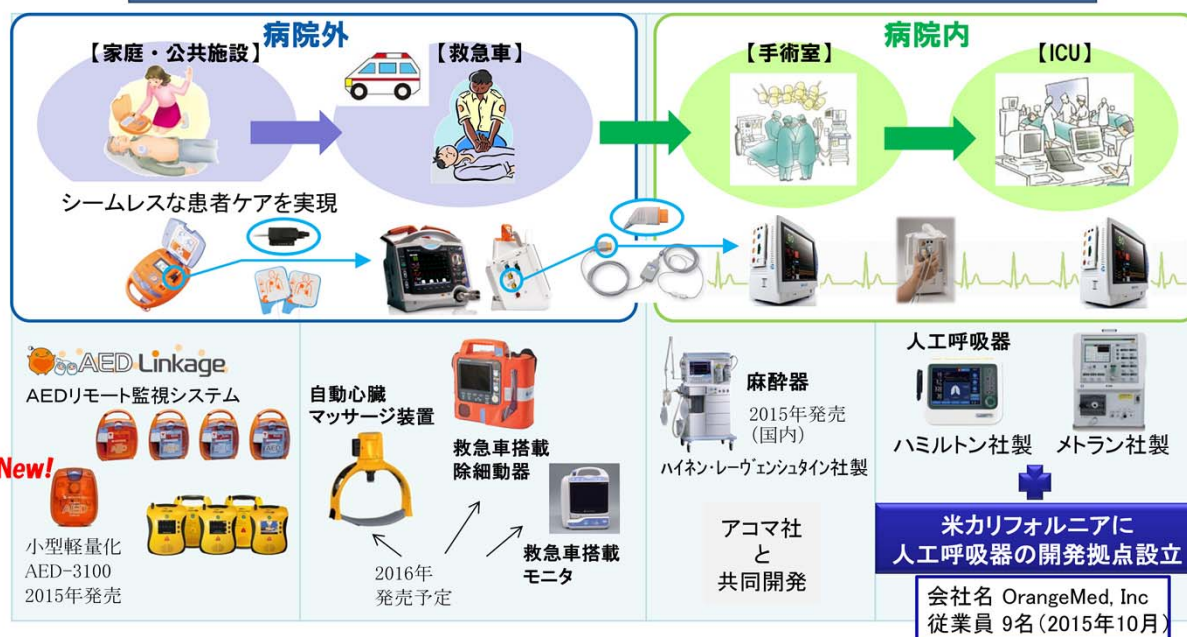
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

26

- コア事業の柱である生体情報モニタでは、バイタルサインテレメータ、搬送用モニタ、最上位機種種のベッドサイドモニタ、そして、モバイルビューワーの投入により、次世代のプラットフォームが完成しました。現在、世界でも最先端のソリューションを提供しています。
- ミドル・ローエンド市場向けのベッドサイドモニタには、iNIBPを搭載することで臨床的価値を生み出し、競争力を高めるとともに医療技術の向上に貢献してまいります。
- 手術室向けのベッドサイドモニタには、新たに薬物動態シミュレーションを追加し、診断サポート機能を向上します。

治療機器事業

サイト別に生体情報モニタリング事業との連携を強化



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

27

- 治療機器では、院外から院内に至る一連のケアサイクルソリューションを提供してまいります。
- AED、除細動器、モニタを自社で開発している強みを活かし、パッドやセンサを共通化し、患者データを統合することで、シームレスな患者ケアを可能としています。
- 当期は、新たにAEDを発売し、自動心臓マッサージ装置や救急車向けの除細動器、モニタを予定しています。
- また、ハイン・レーヴェンシュタイン社の麻酔器を国内で発売しました。さらに、カリフォルニアに新たに設立した開発拠点で呼吸器、アコマ社との提携で麻酔器の自社開発を進めます。
- 治療機器は、高い信頼性を要求されるため、高い技術力、長期的な競争優位を獲得するために、戦略的にも、重要な挑戦と考えています。

検体検査機器

新商品の投入

血球計数器



MEK-6500シリーズ



MEK-7300

最上位機種 血球計数器



2016年発売予定

臨床化学分析装置

CHM-4120
CRPを測定CHM-4100
HbA1cとCRP
を測定

新たな領域の開拓

術中迅速病理診断における課題

- ・判定に主観が入り定量化が難しい
- ・病理医が足りない
- ・診断に時間がかかる(約20分)



東京女子医科大学との
産学共同研究

神経膠腫※摘出手術の 術中迅速フローサイトメータを開発

①組織摘出



組織片

New!

②10分で 高DNA量細胞 比率を算出



高DNA量測定装置 FCM-2200

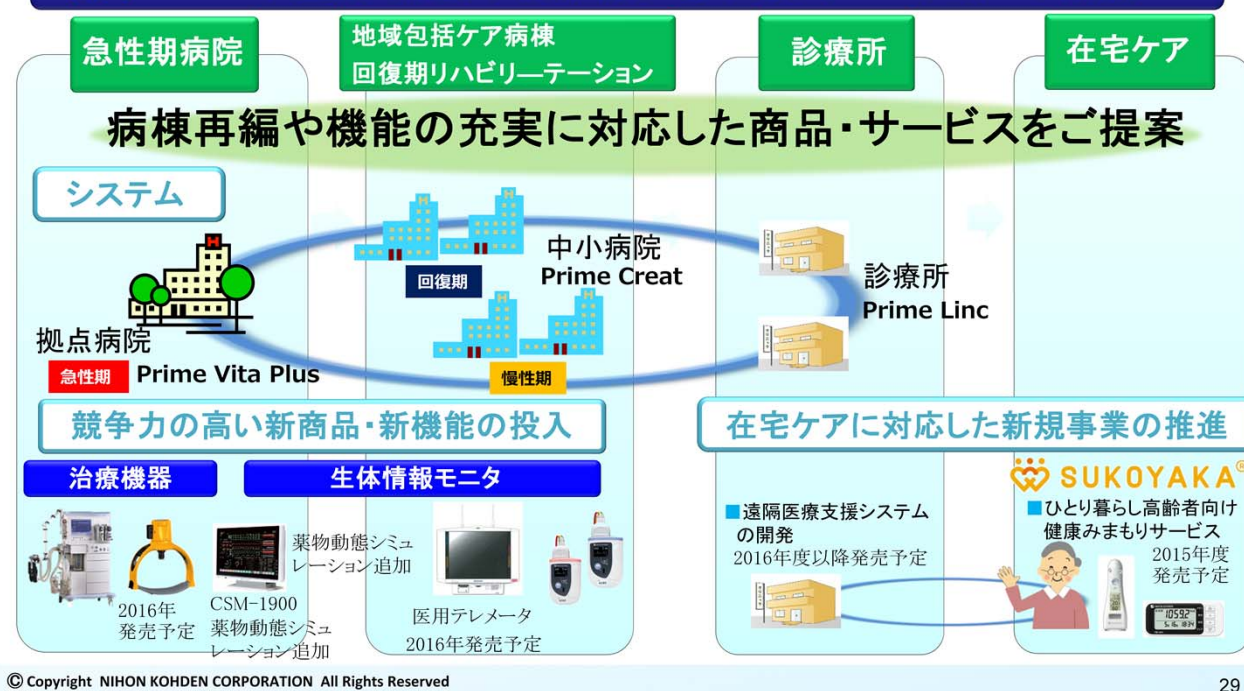
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

※グリオーマ。脳腫瘍の約3割を占める悪性腫瘍 28

- 検体検査機器は、今後さらなる成長が期待される分野です。
- 主力の血球計数器では、5分類の最上位機種の発売を予定しています。また、免疫反応測定装置の海外展開を加速します。
- 新たな領域としてフローサイトメトリを応用した高DNA量測定装置を発売し、脳腫瘍摘出手術における迅速診断を支援します。
- 血球計数、免疫測定、腫瘍診断における研究開発を強化するとともに、ポイント・オブ・ケアにフォーカスしたソリューションを提供し、事業拡大を目指します。

②地域別事業展開の強化

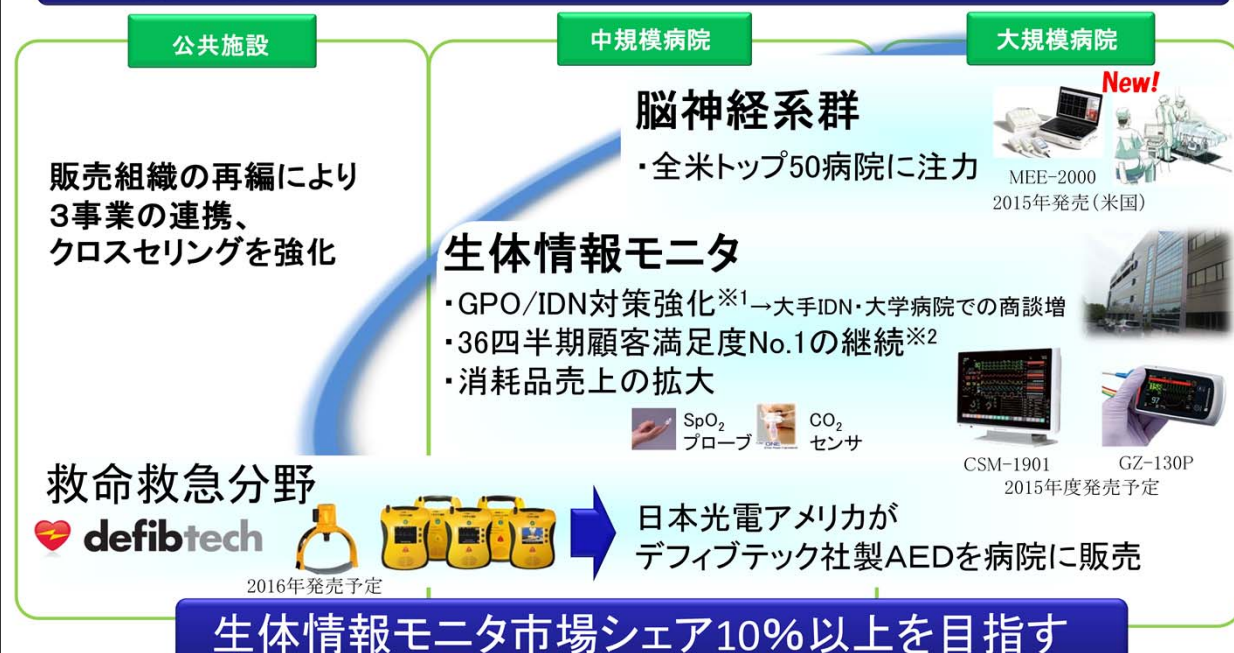
日本: 2025年医療・介護の将来像に合ったソリューションの構築



29

- 日本では、2025年の医療と介護の将来像に向けた医療制度改革が進行しており、市場環境が変化しつつあります。
- 病棟再編や医療機能の充実に対応するため、急性期、慢性期、回復期のニーズに根差したモニタシステムや治療機器の開発を強化するとともに、在宅医療を見据えた遠隔医療支援システムのラインアップを加えることで、業容の拡大を図ります。
- 11月末からは、高齢者の健康みまもりサービスを開始します。
- 拠点病院、中小病院、診療所を網羅するシステム商品の展開を強化し、地域医療連携に向けた患者情報の統合基盤を構築してまいります。

先端医療をリードするアメリカにおけるプレゼンスの確立



※1 GPO: Group Purchase Organization グループ購買組織 IDN: Integrated Delivery Network 総合医療ネットワーク
※2 米国の医療機関に対して、第三者評価会社MD Buylineが実施した調査結果

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

30

- 米国は、世界最大の医療機器市場であり、革新的医療機器を生み出す先端医療の中心地であるため、米国でのプレゼンス確立は中長期の重要課題です。
- 脳神経系群では高いブランド力があり、全米トップ病院に採用されています。さらに、手術中の神経モニタリング装置を発売し、シェア拡大を目指します。
- 生体情報モニタでは、長年の着実な取り組みの結果、ブランド認知度が高まり、大手IDNやGPOへの採用が進んでいます。
- 2012年に買収したデフィブテックも業績を拡大しており、救命救急分野におけるプレゼンスが高まりつつあります。
- 日本光電アメリカでは、これら3事業のシナジーを、最大限発揮するために、販売体制を再編し、成長加速に向けた改革を推進しています。

成長をけん引する新興国市場でのシェア拡大

事業基盤の強化

中国

・開発・生産・販売・サービスが
一体となった事業展開

民間病院市場に注力

アジア・中近東・中南米

販売・サービスの現地化

【販売拠点】

アジア州：中国、シンガポール、タイ、
マレーシア、インド、
アラブ首長国連邦、韓国
中南米：コロンビア、ブラジル

主要国に現地駐在員を配置
(2015年度内順次)

市場に合わせた商品戦略

日本製品

ハイエンド市場



・AED-3100発売
・韓国、台湾でAEDリモート監視システム発売

上海製品

ミドル&ローエンド市場



2016年
発売予定

マレーシアで生産開始 2015年9月

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

31

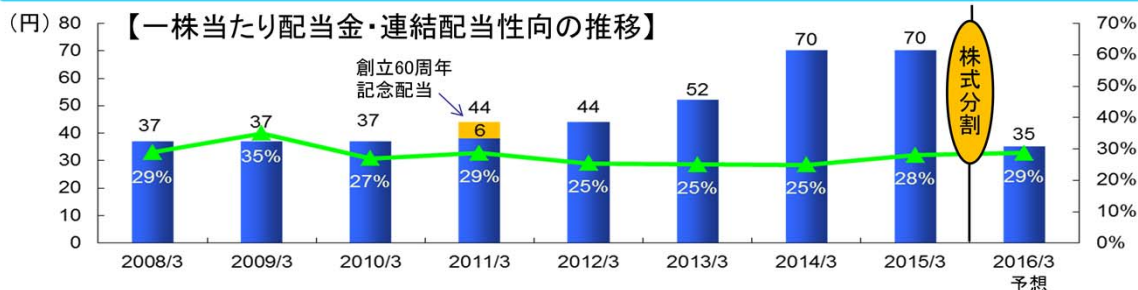
- 世界経済の成長を牽引する新興国では、医療インフラ整備に伴う需要を吸収するとともに、医療水準の向上に貢献してまいります。
- 中国では、開発・生産・販売・サービスが一体となった現地体制を構築し、成長が見込まれる民間病院市場に注力します。
- アジア、中近東、中南米では、販売・サービス体制の現地化を進め、主要国には現地駐在員を配置し、事業基盤をさらに強化します。
- 先進国と同等の機能が求められるハイエンド市場には、日本製品を供給し、ミドル・ローエンド市場には、中国、マレーシアで生産したコスト競争力の高い商品を供給し、シェア拡大を図ってまいります。



【基本方針】

5) 株主還元策

- 研究開発や設備投資、M&A、人財育成など将来の企業成長に必要な内部留保の確保に配慮し、長期に亘って安定的な配当を継続
- 株主還元は、配当を重視し、連結配当性向30%以上を目標
- 自己株式の取得は機動的に検討



自己株式の消却・取得状況

5/20

180万株を消却



6/2

20万株を取得



自己株式保有: 207万株
(持株比率: 2.3%)

- 利益の配分につきましては、研究開発や設備投資、M&A、人財育成など、将来の成長に必要な内部留保の確保に配慮しながら、長期にわたって、安定的な配当を継続することを基本方針としています。
- 株主還元は、配当を重視しており、配当性向は30%以上を目標としています。
- 当期の年間配当金は35円、配当性向は29%の予定です。
- 自己株式につきましては、5月20日に180万株を消却、6月2日に20万株を取得しており、今後も機動的に検討してまいります。
- 国内外の環境は大きな変革期を迎えており、予断を許さない状況ではありますが、一方で新たなビジネスチャンスも生まれつつあります。
- まずは、通期の見通しを達成すべく、国内外の販売体制を一層強化するとともに、収益改善策を推進し、企業体質の強化に取り組んでまいります。
- さらに、革新的技術を生み出し、持続的な成長を実現するための体制構築に邁進する所存です。



この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】経営企画室

【連絡先】TEL03-5996-8003